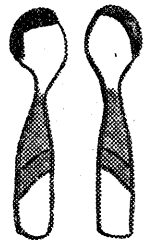


製作のヒント



林 健 造



1. ねんど

幼児の造形的な表現活動の中で、ねんどという素材は重要な位置をしめている。

おそらく美術教育の進歩的な国々では、必ずといってよいほど幼児にねんどを与えているであろう。そのわけは、ねんどの可塑性が最も幼児の造形活動にびったりしているからである。可塑性というのは、丸くでも平にでも、ひものように細長くでも、自由自在の形になるということであるが、この点では、紙や木などからくらべたらまことにその自由さがある。もちろん、もっと深層を考えれば、人間と土との不離な関係や、子どもの大すぎな泥いじりの心理と結びつくことであろう。

ニューヨークのある街で、建築工事がおこなわれていたが、あるとき、「土をふませます。」という看板を掲げたら、道行く多くの人々が靴をぬぎはだしになってその黒土を踏んだという話などを聞く。人間の土への愛着というものの深さをしみじみと考えさせられることである。

ところがこのような有意義なねんどが、日本の幼稚園の現場ではあまりつかわれていないようである。というのは、どんなことが原因かというと、

- ・子どもの衣服をよこす。
- ・部屋や机をきたなくする。
- ・前後の準備や後始末に大へんな時間がかかる。
- ・ねんどが簡単に手に入らない。

・貯蔵の仕方が面倒である。

などがあげられよう。これはまったく雑用で多忙な幼稚園や保育園の先生がたを知っているとなるほどとうなずける点もあって、このために用意されたような「子どもの着物の汚れは叱るが、心の汚れに無関心である。」という偉い人のことばを提供しても、きいてはただけないようである。

このために都会地などではゴムねんどやビニールねんど、油ねんどなどで土への愛着はかなえないまでも、いわゆる可塑性はあるのでこれで代用しているようである。

ところで、ねんどをよくつかっている園のようすとみると、園の庭にでたり、コンクリートのたたきのところを利用したり、あるいは机の上にビニールを敷いてやったりしている。子どもたちの服装も、作業衣のエプロンをさせたり、そでをまくらせて胴のところは新聞紙をまいてやったり、さては、男の子も女の子もパンツ一枚の裸ん坊にしてやっているとところもあって、これらの指導者にきいてみると、前にのべたような手数がかかって大へんだなどといったことばはあまりきかない。それよりも

「子どもってすばらしいですね。」

などとそのたくましい自由な表現力に感歎していることの方が多い。

園の事情や地域的な問題や教師の性格などで一概には言えないま

でも、教師のやる気のあるかないかでも随分子どもの表現活動を通して幸・不幸が生れることだろうと考えさせられる。

2. ドーフねんど

しかし、商人がもってくる油ねんどやゴムねんどは、大きさが一定していて、どうも素材自体がとりすましていて幼児むきでないような気がし、なにかねんどと同じようなもので都会地などでも便利なものはないかと考えていた矢先、放送などで著名な秋山ちえ子氏がアメリカの旅行から帰られて、ドーフねんどなるものを教えてもらった。

ドーフとはいわゆるウドン粉なのである。ウドン粉をねってダンゴにしたものならば、私どもの幼い頃、祭りが何かの時にお手でダンゴを作っている母親の傍にいて、ちょっとつまんできては、これを丸めて兎を作ったり、細長くのばしてへびを作ったりした思い出はある。

しかもこれは、絵具を混入することによってどのようにも着色できる。早速子どもたちもやってみたら、

「ウワッ 赤いねんどだ、黄色いねんどだ。」ととび上って喜んだ。その後も、手の触感が忘れられないらしく、

「先生、フワフワねんどして。」

などと請求される。フワフワねんどとはうまくつけたもので、マシユマロのように手ざわりが快感を伴なうのだろう。

つい先日、代々木のアメリカンスクールに招かれていったときに、先方の園長さんが、「日本ではまだこういうのを知らないでしょう。」とミルクの大罐のような美しい罐をみせられた。そのレットルには“Dough Clay Day School”と書いてあった。向うではドーフプレーと呼んでさかんに用いているようである。

3. ドーフと私の経験

アメリカンスクールにいく前、私はあるところからドーフねんどの処方を手に入れた。それには次のように書いてあった。

- ・メリケン粉——50匁
- ・塩——大さじ一杯
- ・防腐剤——安息酸（糊に入れる防腐剤）2.5匁
- ・水——適当な固さになるように
- ・食用色粉——適度の分量

ところで私はこのドーフを教えられて、早速これがある大がかりな全国的な公開授業のときに実施してみたことがある。

これは今になればたいへん面白い話になるがみなさんがおやりになるときの何か御参考になるかもしれないので御紹介しておこう。

例年お茶の水の幼稚園でも小学校でも六月に全国的な公開研究会をもつならわしになっている。

私は小学校一年生を対象として、ドーフの指導を試みたものである。六月の一年生といえば、つい三月前までは幼稚園にいた子どもたちである。

さて計画にあたっては、事前に大体の処方通りウドン粉をねり、適当に粉絵具を入れて着色し、練りあげてみるとなるほど手ざわりのよい、美しいねんどができる。これを四、五人の子どもにも実験してみたが大喜びでいろいろなものを実に楽しく作っている。

大体これでよしと公開指導の前日に大きなボールを四つほど用意し、これに青、黄色、赤、緑の四色のドーフをややかたために作った。

ただ前に作ったものが粉絵具の分量が多かったので色をひかえ、薄めにして赤などもいわゆるモモイロ程度にして全体をやわらかな中間色にした。

当日は、これで、できるだけ子どもたちの喜びのままに、自由にすぎなものをごんごん作らせよう。それにはドーフだけでなく、ものを作る発想のきつかけをあたえる意味で、竹ひごも用意しようと考えた。これが後で述べるようにたいへんまずい結果になることになった。

さて当日は、全国から集まられた先生がたが子どもたちのまわり

をぐるりと取り囲んで参観している。授業がはじまり、できるだけ楽しいフニキを作ってやったつもりでも多くの人に気おくれしたのか、ドーフをわたしても歓声もおこらない。作っているものとはみると、どの子どもも手先で小さなおだんごを丸めている。

「机の上の竹ひごなども使っていますよ。」

と刺激をあたえてやると、こんどは今までまるめたおだんごを竹ひごに通している。したがってますますおだんごづくりばかりになり、おだんごづくりを奨励したみないな結果になった。

まずくいく指導というものは、えてしてこんな具合で、教師の意中とは逆な方向にいくものである。

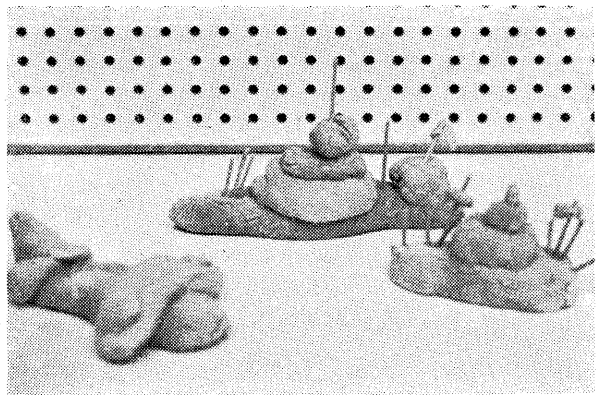
これではせっかく指導案にかいた、子どもの創造力をのばし……などということとは全く反対の方向である。私もそうそうあせらざるを得ない。全国からの先生がたを集めて、非創造的なだんごづくりをおめにかけるようなものである。

「おだんごばかりで、先生もうお腹いっぱいになったよ。」

などといってもさらに効果がない。さじをなげかけたつもりで、机の間を廻っていると、ふと一人の子どもが小さな船を作っているのを発見した。「地獄で仏」とはこのことである。

「君のお船はいいね。だけど机の上じゃあ走らないから、いま先生海を作ってやろうね。」

とっさに私は大きなベニヤ板を出してきて、教卓の上におき、そ



こに青色のチョークで

「さあここは海だよ」

と線をひいてやって、

その子の船を浮かべて

やった。その子はとて

も嬉しそうに眼を輝や

かせていた。

これがきつかけとなっ

て、

「あ、いいんだなあ。先

生ぼく汽車つくるよ。」

「それじゃあ私トネル

作る。」

といった具合で、それ

はあたかも水をえた魚

のようなもので、次から次とぎつぎのおだんごはたちまち潰されて、それぞれの子ども個性に応じた創造的な作品がベニヤ板いっぱいになっていった。

教室はさっきのしゅんとした空気はどこへやら、わあわあど蜂の巣をついたような賑やかさである。

おかげで「非創造的な表現を創造的に導くにはどうするか」とい

う学習指導となつて、一応の面目をほどこしたことになつたが、ここで考えさせられたことは、やはり写真でいうシャッター・チャンスということ、つまり今だというチャンスをのがさぬこと、それときっかけを作ることが大切なことで、ただ創造的に作れといつても、創造的な作品は生まれてはこない、ということをしみじみ感じさせられたものである。

4. ヒントとして

今月は、絵画製作のヒントとして「ドーフねんど」をみなさんにさしあげたのであるが、幼稚園などの素材として好的なものであると思われるので、ぜひ試みられることをおすすめしたい。そして次にのべることがらを問題にしたら、興味ある研究になると考えます。

1、ドーフねんどの私の処方箋

前述の処方は大体の目安で、水の分量も色粉の分量もはっきりしたものではないので、比較的正しい幼児むぎの処方を発表していただきたい。

2、ごく自然の状態で、ドーフねんどを最初にあたえたとき、子どもたちはどんなものを作るか。

例の指絵具（フィンガー・ペイント）を最初に試みさせたとき

の園児の調査で、子どもの性格的なものがよく解つたという研究があるが、最初の材料体験と表現との関係は興味ある研究になろう。

3、ドーフねんど ゴラス + x

私の場合ドーフねんどと竹ひごをあたえ、先にのべたような話になつたが、ドーフねんどともに製作の補助や、発想のきっかけを作るためにどんな材料をあたえたらよいかについての私の試み。

4、ドーフねんどの活用

ドーフは普通のねんどと違って色があるので、いつも子どもの土ねんどのような立体的にいぬを作ったり、おだんごを作ったりすることだけにとらわれる必要はない。平面の仕事にも、たとえば絵や図案のような仕事もできようし、その他、園のいろいろな活動に結びつけたもつと広い活用面がないであろうか、ということである。

以上大体四つの問題にしぼってみたが、どの問題ととりくんでくださつてもよい。そのいずれにせよ興味ある問題を、仲間としての私たちの問題として研究させていただければ幸である。